

科目名	生活とリハビリテーション	配当時期	2年次 前期	講義担当者
時間割表記名	生活とリハビリテーション	単位数	1 単位	村上寿一
		時間数	30 時間(15 回)	市場美織
事前学習内容				
解剖生理学、疾病論(運動器・感覚器・循環器)の学習内容を活用し受講できるよう準備する。				
授業目標				
1. リハビリテーションを人間としての権利や名誉の回復ととらえ、健康とは何かを理解することができる。				
2. ICF による障害の可視化を通して、その人らしい生活を再構築していく過程を支援するための看護理論と実践について理解することができる。				
3. 介護予防につながるリハビリテーションの実際について理解することができる。				
教育目標との関連				
DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。				
DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。				
DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。				
回	学習内容	方法	備考	
1	1. リハビリテーション期とは 1)リハビリテーション期におけるチーム医療 2)リハビリテーション期における看護師の役割 3)リハビリテーション期における患者の特徴 (1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 4)回復促進・生活の再構築に向けた支援 (1)中範囲理論の活用 ①変化のステージモデル 行動変容ステージモデル ②自己効力感	講義	テキスト②③	
2	2. リハビリテーションの概論 1)リハビリテーション医学の歴史と理念 (1)リハビリテーション医学の歴史 2)健康に関する問題の国際分類(WHO の国際分類) (1)障害分類の動向 (2)生活機能分類(ICF) 3)障害のレベルとその基本的アプローチ (1)障害の用語 (2)障害の3層分類と相互関係 (3)3つの障害への基本的アプローチ (4)リハビリテーションの流れ	講義	テキスト①	
3	3. 機能の維持・回復のためのリハビリテーション 1)【演習】関節可動域の測定、訓練 2)座位体勢訓練 3)筋力強化訓練 筋力評価(MMT) 4)【演習】廃用症候群予防のための自動・他動運動	講義 演習	テキスト① 実習室	

4	4. 疾患別リハビリテーション看護 1)脳疾患(脳卒中)のリハビリテーション(PT) 【演習】三角巾の使い方 【演習】麻痺のある対象の体位変換	講義 演習	テキスト① 実習室(三角巾車いす)
5	2)脳疾患(脳卒中)のリハビリテーション(OT) (1)日常生活活動の援助 【演習】更衣動作の援助 (2)作業療法について	講義 演習	テキスト① 実習室 (三角巾)
6	3)循環器疾患(心筋梗塞)のリハビリテーション 心臓リハビリテーション	講義	テキスト①
7	4)運動器疾患のリハビリテーション 大腿骨頸部骨折のリハビリテーション	講義	テキスト①
8	5. 廃用症候群のリハビリテーション	講義	テキスト①
9	6. 看護師によるリハビリ起居・移動動作と歩行介助 【演習】車いす 歩行器 松葉杖	講義 演習	テキスト①
10	7. 言語聴覚障害について 1)聴覚障害に対するリハビリテーション (1)リハビリテーションの実際 (2)聴覚口話法・キュードスピーチ・トータルコミュニケーション・聴覚単感覚法・手話	講義 演習	テキスト①
11	8. コミュニケーション自立のためのリハビリテーション 1)言語障害者とのコミュニケーション 2)失語症患者のリハビリテーション看護	講義	テキスト①
12	9. 摂食嚥下障害に対するリハビリテーション 1)摂食・嚥下訓練 ①関節訓練 嚥下体操・アイスマッサージ・K-point 刺激法・ブローイング訓練・プッシング訓練・プリング訓練・頭部挙上訓練・メンデルソン手技 ②直接訓練 環境調整の実際(高次機能障害機能を持つ患者) 2)食事をを用いる自助具の活用の実際	講義 演習	テキスト①
13	10. 視覚障害に対するリハビリテーション 1)視覚障害者リハビリテーションの目標 2)障害受容と自立に向けた支援 3)視覚障害者リハビリテーションの実際	講義	テキスト①
14	11. セルフケア能力を高めるリハビリ看護の実践 1)ADLとセルフケア 2)日常生活行動の自立を支える条件 3)セルフケア能力向上と看護 4)急性期のアセスメント・アプローチ	講義 演習	テキスト①
15	筆記試験(45分) リハビリテーションまとめ	試験 (筆記)	

受講上の注意	評価方法 筆記試験
<p>使用するテキスト</p> <ul style="list-style-type: none">①QOLを高めるリハビリテーション看護, 医歯薬出版株式会社②系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院③看護診断のためのよくわかる中範囲理論 黒田裕子 医学書院 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none">①系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院	